

NO. 2317 【洛西・愛宕山】

2012年6月3日（日）曇一時晴

参加者：藤本（L）、岡本（記）

<行程・時間>

9：22 清滝→11：05 龍の小屋（10分休憩）→（芦見谷源流）→12：00
尾根→12：53 神明峠→13：00 昼食（15分）→（明智越経由）→14：30
明智超登山口→14：55 JR 亀岡駅

久しぶりの清滝だ。奈良からは、意外に行きにくい場所で、中々行けない。ちょうど良い機会だと思ったが、嵐山8時50分の集合に集合するため家を6時25分に出ないといけないのは少し辛い。

阪急桂駅で乗り換えのとき、声を掛けられた。藤本さんだ、が、藤本さんしかいない。それ程の負担感もなく季節的にも良いコースと思われ、多数の参加を予想していたが意外感がある。ともあれ、中高年の男二人の清滝というのは、イマイチ情けなさそうな感もするが、この際、頑張っって歩くしかない。

清滝からしばらくアスファルト舗装の道が続くが、月輪寺の分岐までは木が鬱蒼と茂り、右手は深い溪谷で、何となく歴史を思わせる雰囲気の良い道である。分岐を過ぎ、梨ノ木谷沿いの林道をひたすら歩く。林道沿いの山は、植林されているところもあるが、所々伐採されたりして少し荒れた山もあり、今までの道に比べると趣が欠ける。梨木大神辺りからは登山道らしくなるが、山は荒れ気味で、その中をひたすら登る。横を流れていた川も段々細くなり、川沿いにクリンソウなども見えてくる。峠も間近だ。

最後の坂を登り切ったところが首無地蔵のあるサカサマ峠だ。龍の小屋までは少しということ、少し水分を補給して先へ進む。峠からは、鬱蒼とした森の中の小川に沿って進む。緩やかな下りで、森の水分が肌に感じられ、体には気持ちの良い山道だ。少し行くと林道に合流し、その先が龍の小屋だ。

小屋では、その所有者の何某さんを取り囲みたき火をしている。右手には結構まとりな小屋があり、その周辺にはクリンソウが咲き誇っているが、鹿避けの囲いがあり、少し興ざめる。ここで休憩を取る。

小屋から少し行き、芦見谷源流へ入る。山道は踏み跡もしっかりしており、坂も急でなく歩き易い。所々砥石を切り出した跡があり、その為、谷も比較的明るい。新緑に混じり、所々で花木も咲いていて、中々雰囲気の良い登りだ。

登り切り尾根にでると今度は林道のような道が続く。開けた感じであるが、新緑も美しく、所々で遠望も楽しめ、退屈のしない道だ。神明峠方面への分岐からは檜の植林地帯となり、少し単調な下りが続く。その内、何やら訳の分からない原子力発電論争などやっていると、神明峠についた。

峠はアスファルトの車道であり、そこから少し行き、明智越に繋がる山道に入ったところで昼食を取る。この辺りから明智越にかけてはなだらかな下りで、所々に自転車進入禁止のテープのある自転車でも走れるような道だ。更に論争が続いている内に亀岡の町が見えてきた。

明智越登山口は村の一番上の辺りにあり、そこから保津川を挟んで亀岡の町が綺麗に見

える。村を下り保津川に架かる村には立派過ぎるような橋を越える。この辺りはまだ二毛作を行っており、一面、金色の麦秋の世界だ。天気も良く、麦の色が綺麗に映えている。少し行くと、ケシの花が満開の休耕地の真ん中辺りに保津川下りに使うような舟がおかれてあり、赤いケシの花と金色の麦穂のコントラストとマッチして美しい。誰かが写真を撮っている。藤本さんが「麦秋」が綺麗だと言うと、相手はきょとんとした顔をしている。よく見ると相手は外人だ。日本語はしゃべれそうであったが、意味は通じていない。が、日本に長くいるのか、笑顔で会話をごまかす。そうこうしているうちに亀岡駅だ。

以上